

# 第8回アジア金属労組連絡会議

JCM国際局 横田 康人

第8回アジア金属労組連絡会議は、2015年6月9日～10日にマレーシア・ベタリンジャヤで開催され、インドネシア・ジャババ東部およびアジア太平洋地域から16カ国86名が参加しました。

この会議は、「インドネシア・ジャババ東部、地域事務所と連携、協力のもと、アジア太平洋地域の金属産業労組に意見交換・情報交換の場を提供し、時宜を得た様々な問題について議論し、活動の発展に寄与する」という

意を示し、改めて当会議の目的について触れた後、「アジア金属労組連絡会議は、IMF(国際金属労連)の時代から、機関決定あるいは決議を行う場ではないものの、アジア太平洋地域の加盟組織間の情報交換、連携強化の場として位置づけ、一定の役割を果たしてきた。」と述べました。

加えて、会議の主要議題に対する現状の課題認識を示した上で、アジア金属労組連絡会議を契機とした組織間の連帯と各国の活動の推進、プレゼンスの向上、更にはインドネシア・ジャババ東部の活性化などに対する期待を述べました。

## 【議題1】

### インドネシア・ジャババ東部 第2回世界大会に向けた課題

インドネシア・ジャババ東部のケマル・ウズカン書記次長から、各セクターの活動状況、組織体制、加盟費、GFA(グローバル枠組み協定)締結に向けた取り組み、およびインドネシア・ジャババ東部が取り組むグローバル・キャンペーン

などについて報告されました。引き続き、インドネシア・ジャババ東部地域事務所のアニー・アドビエント所長、南アジア地域事務所のスダルシヤン・ラオ・サルデ所長からは、各国の活動の共有、各国のインドネシア・ジャババ東部加盟組織と協働した組織拡大への取り組みなどが報告されました。

なお、ラオ所長は2015年6月末日を以て退任のため、後任のアプルーヴァ・カイワールさんが紹介されました。相原議長よりラオ所長の長年の功績を称えるとともに、アプルーヴァ新所長に対する期待を述べました。

## 【議題2】

### 2015年ASEAN経済共同体(AECC)創設に向けた 労働組合の役割

マレーシアからチャールズ・サンチャゴ下院議員を招へいし、講演していただきました。サンチャゴ議員はASEANについて、経済面での共同体創設が一番進んでいるが、ビジネスに関するのみが優先され、労働者の権

利やILO中核的労働基準が言及されていないこと、今後は企業の枠組みを越えて、労働者の利害を第一に尊重し、ソーシャル面を重視したASEANへの転換の必要性を強調しました。

質疑応答の後、相原議長は、「経済連携協定については、十分ではない面はあるものの、人類の進歩の可能性を絶つのではなく、議論の透明性を高めていく努力が必要。ビジネスASEANとソーシャルASEANは、対立的な概念ではなく、バランスのとれたものとするべきである。アジア金属労組連絡会議も回を重ねることに、議論の内容が変わってきている。この会議を始めた当初は個別の課題について議論していたが、金属産業の労働運動の課題、そしてインドネシア・ジャババ東部として、経済・社会のフレームワークを如何に構築していくかということを考えるようになった。労働者同士を競わせるような結果のみにはしてはならない。」とまとめました。



目的のもと、2007年以来、年に1度、JCM主催により実施してきました。会議の冒頭では、JCMの相原議長が挨拶に立ち、世界各国からの積極的な参加に対する謝

【議題3】

各国の金属産業の状況および  
各国金属産業労組の活動につ  
いて

日本、フィリピン、インド、オーストラリア、マレーシアから報告があった後、質疑応答を行いました。

論議のまとめとして、座長のマレーシア・EIEUC（電子産業労働組合連合）のブルーノ・ペリエラ委員長は、「反労働組合的政府による労働組合への攻撃がそれぞれ共通しており、労働者の声にだれも耳を傾けていない。賃上げで国内経済を牽引できるのに逆に賃下げしている。ILO条約や人権よりも会社の利益が優先されてしまい、社会的セーフティネットにも懸念のある状況になっている。AECでは個々の国において生活費の水準や、労働法等は異なるが、共通の労働法について話し合ってみてはどうか。」と述べました。

【議題4】

不安定雇用について

―その要因と影響、労働組合の  
対策と成果、今後の活動

韓国、インドネシア、タイ、シンガポール、スリランカから報告があった後、質疑応答を行いました。

座長のブルーノ・ペリエラ委員長は、

論議のまとめとして、「不安定雇用で働く人々と正規労働者の間では、賃金労働条件に大きな格差があり、その格差の拡大がそれぞれの国で起きており、大きな問題となっている。各国が対策を取る必要があるにもかかわらず、直接投資を誘致するために、社会的セーフティネットを犠牲にしつつ、移民労働者を活用することで企業が利益を上げる構図となっている。」と述べました。

【議題5】

今後のアジア金属労組連絡  
会議について

前回の第7回アジア金属労組連絡会議における議論を受け、以下2点について浅沼事務局長より提案を行いました。

① JCM主催のアジア金属労組連絡会議は、2016年夏・日本開催を以て終了2016年夏・日本開催を以て終了とすること。

② 2017年以降のあり方については、3GUF（国際産業別組織）統合のシナジー効果が発揮されるよう、引き続き様々な可能性を模索していく。インダストリアル本部・地域事務所、日本の旧ICEM（国際化学エネルギー鉱山一般労連）加盟組織であるインダストリアル・

JAF、旧ITGLWF（国際繊維被服皮革労働組合同盟）加盟組織であるUAゼンセンと継続的に議論していく。合わせて、限られた予算の中で、効果を最大化できるような手法を考えていく。

相原議長は、「アジア金属労組連絡会議は、元を辿ればIMF本部が主催していた『IMF東南アジア・リーダーシップセミナー』であり、その後IMF-JC主催の『アジア金属連帯セミナー』に引き継がれ、現在の形となった。大変長い歴史を有しており、それぞれの時代において課題や問題意識について、参加者により活性化され、よりよい討議が行われてきたという経緯を踏まえれば、単に終了ということではなく、一つの節目としてインダストリアル時代のにおける新たな会議体のあり方を検討していく必要性がある。」とコメントしました。

その後の意見交換では、アジア金属労組連絡会議が、アジア太平洋地域の労働運動の発展に果たしてきた役割に對し、高く評価する意見が多く挙げられ、新たな会議体の可能性について様々な観点から意見が交わされました。

ケマル・ウズカン書記次長は、JCMが長年にわたってアジア太平洋地域の金属労働者の連帯を構築してきたこ

とに謝意を表明した上で、JCMの提案を支持し、インダストリアルではこれまでのアジア金属労組連絡会議の伝統的な形も念頭に置き、今後、様々な機会を模索していくと述べました。

閉会の挨拶で、ケマル・ウズカン書記次長は、各国の労働組合運動やその困難さについて把握できた有意義な会議であったこと、JCMのリーダーシップについて謝意を述べました。

相原議長は、「アジア金属労組連絡会議としては8回目を終える。労働の未来を構築していかなければならないという方向について多くの賛同の意見と勇気をいただいたことに対し、感謝申し上げます。そういう変化点に立たされたアジア金属労組連絡会議であり、多様性あるアジアの間が団結して、様々な課題に挑戦していくことを、全員で約束し合いたい。」と述べ、会議を終了しました。

会議終了後、参加者全員で



と述べ、会議を終了しました。